

ロシアによるウクライナ侵略を強く非難する決議

ウクライナをめぐる情勢については、昨年末以来、国境付近におけるロシア軍増強が続く中、我が国を含む国際社会が、緊張の緩和と事態の打開に向けて、懸命な外交努力を重ねてきた。

しかし、2月21日、プーチン・ロシア大統領は、ウクライナの一部である、自称「ドネツク人民共和国」及び「ルハンスク人民共和国」の「独立」を承認する大統領令に署名し、24日、ロシアはウクライナへの侵略を開始した。

ロシアによる侵略は、力による一方的な現状変更の試みであり、国際社会の秩序の根幹を揺るがす行為として、国際法違反であることは明白である。

ロシアは国際社会の強い批判にもかかわらず、侵略行為を継続しており、市民への被害拡大が憂慮され、「平和都市」であることを宣言している本市としても、決して看過することはできない。

よって、本市議会は、国際社会の恒久平和を世界に訴えつつ、ロシアによる侵略を最も強い言葉で非難するとともに、ロシアに対し、国際法を遵守し、攻撃の即時停止と部隊の撤収及び平和的解決を強く求める。

以上、決議する。

令和4年3月10日

黒 部 市 議 会